

姉妹そろってメダル獲得！



Profile

遠藤 朱李選手 (左)
1999年9月生まれ 鏡石二小教諭

遠藤 梨李選手 (右)
2002年2月生まれ いちご株式会社
ウエイトリフティング部所属

鏡石の若い力

重量挙げの全日本選手権は、4月26日(金)、27日(土)の2日間、長崎県諫早市の小野体育館で開催され、姉の遠藤朱李選手は女子87^キ級で銀メダル、妹の遠藤梨李選手は女子59^キ級で金メダルに輝きました。

重量挙げ全日本選手権

遠藤梨李選手
59^キ級初制覇
遠藤朱李選手
87^キ級2位

— おふたりとも、この度は、受賞おめでとうございます。早速ですが、今回の結果を受けての感想をお願いします。
朱李選手 「素直に嬉しいです。ずっと応援してくれている子どもたちにメダルを見せられてほっとしました。」

梨李選手 「今回は絶対に優勝すると決めて臨んだ大会だったので、思い通りの結果となって嬉しかったです。」
— 競技中はどうなことを考えていましたか。
朱李選手 「私はあまり緊張しないタイプなので、とにかく楽しいという感情が95パーセントを占めていました。」

梨李選手 「私も楽しいという感情がほとんどです。楽しさが85パーセントくらいで、残りは集中していました。」
— おふたりとも、競技に對して楽しいという感情が強いんですね。モチベーションを維持したり、心身共にコンディションを整えるために気を付けていることは何ですか。
朱李選手 「私は、あまり悩まずに前向きに取り組むことかなと思っています。スランプになったり悩むのも、頑張っ

て頑張っている証だ、楽しもうと思っています。」
梨李選手 「私は、出来ないことが見つかったら、苦手を克服するチャンスと捉えています。課題に対するアプローチを考えて、どうしたら苦手を無くせるかを考えています。」
— 姉妹で同じ競技をしていますが、お互い影響を受けることはありますか。
朱李選手 「競技を始めたときから、よく情報交換しています。お互い頑張っていることは分かっているから、試合前に応援したりはあまりしませんが、練習方法などについて相談したりしています。」

梨李選手 「試合後には、次の大会を見据えて改善点を伝え合ったりしていますね。やっぱり、身近に同じ競技をしている人がいてくれるのは、心強いと思います。」
— 今後の目標や展望を教えてください。
朱李選手 「とにかく頑張っている姿をみせることで、これまで出会えたたくさんの方々に恩返しをしたいと思っています。メダル獲得や、大会の結果はその過程にあるものだから、

と頑張っています。」
梨李選手 「大会に出場するたびに、皆さんから声をかけていただいたりしています。皆さんが支えてくださることが力になっています。皆さんのためにも良い成績を残せるように、これからも全力で頑張りたいと思いますので、あたたい応援をよろしくお願いします。」

と頑張っています。」
梨李選手 「私も同じ気持ちです。後は、ロサンゼルスオリンピックに向けて、自分らしいスタイルを見つけながら頑張っていきたいと思っています。」
— 最後に、応援してくれている方々へ一言お願いします。
朱李選手 「町民の皆さんももちろんですが、特に担任している子どもたちや保護者の方々にいつも温かい応援をいただくと嬉しいです。これからも応援をお願いします。妹の活躍をみて、更に頑張りたいと思います。今後は、国際大会にもたくさん出て、次こそは金メダルを取れるようにしたいです。」

梨李選手 「今は、鏡石町を離れて生活していますが、帰郷すると、いつも優しく声をかけてくれたりと、皆さんが温かく迎えてくれることが嬉しいです。前から夢だったロサンゼルスオリンピックに向けて更に力をつけて、良い報告ができるように、引き続き頑張ります。」

大舞台で活躍

U-20 アジア陸上競技選手権大会の最終日は4月27日(土)に、アラブ首長国連邦のドバイで男子3000mが行われ、増子陽太選手(学法石川高2年)が8分16秒06で優勝しました。

U20アジア陸上選手権

増子陽太選手 国際大会初V
男子3000mで金メダル



写真提供: るん. さん

Profile

増子 陽太選手
2007年8月生まれ
学法石川高校2年 陸上競技部所属

ですが、本番までにしっかりと間に合わせることができました。優勝という結果については、今後の自信に繋がりました。今年度はまだ始まったばかりということで、良いスタートを切れましたし、所属しているチームにも貢献できたと思います。」
— レース中の走りを振り返ってみて、良かったと思う点や改善点があれば教えてください。
増子選手 「良かった点は、単独走で押し切れたということです。早いペースで押し切っていますが、今後は、特にラスト一周で確実に勝ち切るような力をつけることを課題として

て頑張っています。」
— 今後の目標は何ですか。
増子選手 「インターハイ、全国駅伝など大きな大会に出場して勝ち切れるようにしたいです。良い記録を出すことが自信に繋がると思っていますので、一つひとつの大会を大切に、仲間と切磋琢磨しながら日々頑張っていきたいと思っています。」



写真提供: るん. さん

Message



まつだ かずひろ
松田 和宏 さん
学法石川高校
陸上競技部顧問

初めての国際大会ということで、本人にとっても非常に良い経験になったと思います。普段と違う環境の中、自分ひとりでもしっかりとコンディションを整えて、結果を出すことのできる勝負強さを感じました。
— 個人としても期待していますが、駅伝などでもチームを引っばってほしいと思います。

ます。」
— 応援している方々や、町民に向けてメッセージをお願いします。
増子選手 「大会に出場するたびに、皆さんから声をかけていただいたりしています。皆さんが支えてくださることが力になっています。皆さんのためにも良い成績を残せるように、これからも全力で頑張りたいと思いますので、あたたい応援をよろしくお願いします。」